

## デザイン工学部

## 【2024年度大学評価総評】

デザイン工学部はほぼすべての評価項目について適切に対応しており、各項目について更に推し進めた取り組みを行っている。特に学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、今後さらなる成果に期待したい。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。これは知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合デザイン」能力を身につけた学生を養成しようとする理念にかなっており、高く評価できる。

授業形態については、多人数科目やコンピュータ実習科目に対してコロナ禍で培われたノウハウを生かしオンラインツールを併用して教育効果の高い授業が展開できたことは評価できる。

「学部横断的な学習効果の共有と評価方法」に関しては、2023年度から学習成果可視化システムの運用を開始し、前向きな取り組みを行っていることは評価できる。引き続きの検討を期待したい。

年度目標達成状況報告書では、2023年度にB評価であった基盤教育担当専任教員の採用人事について2024年度の重点目標として挙げられており妥当である。

## 大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

## 【2024年度自己点検・評価結果】

## I 現状分析

## 基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）</li> <li>法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html</a></li> </ul>	

## 基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学部教授会規程</li> <li>デザイン工学部教授会規程内規</li> <li>教授会議事録</li> <li>質保証委員会規程</li> <li>質保証委員会議事録</li> </ul>	

### 基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準4 教育・学習

#### (1) 教育課程・教育内容

##### 4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）デザイン工学部 <a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/gakubu/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/gakubu/</a></li> <li>大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）デザイン工学部 <a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/</a></li> </ul>	

##### 4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）</li> <li>法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html</a></li> <li>Web シラバス</li> <li>IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内（建築学科）</li> <li>デザインスタジオ連絡会議議事録（建築学科）</li> <li>卒業研究実施記録、各授業の講義記録（都市環境デザイン工学科）</li> </ul>	

#### (2) 教育方法・学習方法

##### 4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい

4.3④ ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥ 単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）</li> <li>・法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html</a></li> <li>・Web シラバス</li> </ul>	

## 4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html</a></li> <li>・Web シラバス</li> <li>・IAE サーバー「RFC」(Request for Comments)の利用案内（建築学科）</li> <li>・デザインスタジオ連絡会議議事録（建築学科）</li> <li>・各学科教室会議議事録</li> <li>・達成度自己評価システム（都市環境デザイン工学科）</li> <li>・卒業研究実施記録、各授業の講義記録（都市環境デザイン工学科）</li> <li>・卒業研究概要集（システムデザイン学科）</li> </ul>	

## 4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい
<b>【具体的な活用事例】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバスへの反映</li> <li>・指定校推薦の見直し</li> <li>・学科独自の追加アンケートの実施とこれに基づく「優秀授業賞」の選定、授与（都市環境デザイン工学科）</li> </ul> <a href="https://docs.google.com/document/d/1RZmVdxCqacTjt7JFjSp7xNPf09SP44D/edit?usp=drive_link&amp;oid=117610615479066296332&amp;rtpof=true&amp;sd=true">https://docs.google.com/document/d/1RZmVdxCqacTjt7JFjSp7xNPf09SP44D/edit?usp=drive_link&amp;oid=117610615479066296332&amp;rtpof=true&amp;sd=true</a>	

## 基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/policy/admission/">https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/policy/admission/</a></li> <li>・ 教授会議事録</li> </ul>	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教授会議事録</li> <li>・ 運営委員会議事録</li> </ul>	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

## 基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「デザイン工学部教員適格審査内規」(D工規定006号)</li> <li>・ 「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D工規定008号)</li> <li>・ 「法政大学デザイン工学部の教務助手に関する内規」(D工規定017号)</li> <li>・ 教室会議議事録（建築学科）</li> <li>・ 教室会議ならびに拡大教室会議議事録（都市環境デザイン工学科）</li> <li>・ 教室会議議事録（システムデザイン学科）</li> </ul>	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮	はい
---	----

慮しながら人事を行っていますか。	
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会議事録</li> <li>・運営委員会議事録</li> <li>・基盤教育委員会議事録</li> <li>・各学科教室会議議事録</li> </ul>	

## 基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前TOEIC L&amp;R IP オンラインテスト <a href="https://www.hosei.ac.jp/edn/important/article-20240311102414/">https://www.hosei.ac.jp/edn/important/article-20240311102414/</a></li> <li>・2023年度プレースメントテスト結果報告</li> <li>・教授会議事録</li> <li>・運営委員会議事録</li> <li>・Web シラバス</li> <li>・各学科成績不振者面談記録</li> <li>・教室会議議事録（建築学科）</li> <li>・教室会議ならびに拡大教室会議議事録（都市環境デザイン工学科）</li> <li>・教室会議議事録（システムデザイン学科）</li> </ul>	

## 基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理委員会議事録</li> <li>・運営委員会議事録</li> <li>・教授会議事録</li> <li>・学部生研究倫理教育実施報告書</li> </ul>	

## 基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	

- ・デザインスクール開催（高校生及び受験生対象）  
https://www.hosei.ac.jp/edn/info/article-20230413105815/
- ・TOKYO こども起業家ゼミのプログラム開発と実施  
https://www.hosei.ac.jp/edn/info/article-20231106154948/
- ・静岡県沼津市とデザイン工学部の包括提携締結とこれに基づく地元での研究活動
- ・学外展示会（テクノフロンティア・モーションエンジニアリング展）へのブース展示参加  
https://www.jma.or.jp/tf/

## 基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

## II 改善・向上の取り組み

### 1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2023年度大学評価結果総評】（参考）

デザイン工学部は、ほぼすべての評価項目について適切に対応しており、各学科の特色を活かしながら着実に各項目を推進している。特に、地域連携、社会貢献活動を通じた教育の充実化等への取り組みは他学部にも参考になると思われる。強力な地域連携を有することは法政大学の強みに繋がる可能性があることから、今後も継続的に推進することが望まれる。また、デザイン工学部の各学科は、工学を基本にしながらも他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育の充実を図っている。このアプローチは、知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成する理念にかなっており、高く評価できる。COVID-19 への対応・対策に関しては、Zoom や学習支援システム、Google Classroom、YouTube 等、複数の対応方法を併用・活用しており、新型コロナ禍前の従来からの方法の長所とこれらの新しい方法の長所を融合させることで、新型コロナ禍前の状況に戻った際にも教育の質保証が期待できる。

なお、2022年度に改善を求められた「卒業研究の実施方法や対応についての具体的な記述」に関しては、「学習成果を把握する取り組み」として各学科で詳細な記述を追加しており、適切に対応できている。年度目標達成状況報告書では、2022年度でB評価であった「学科間を横断して学習成果の共有や議論」に関して、「学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況を把握・分析し、共有する」ことを年度目標としており妥当である。

#### 【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

デザイン工学部では、今後も学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでいく。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。

また、2023年度の授業形態は、新型コロナ禍前の状態にほぼ復帰したが、一部、学部共通科目などのような大人数科目やオンラインでも教育効果の高いコンピュータ実習科目については、オンラインツールを併用しながら、従来よりもさらに効果的な教育を行っていく。

「学科間を横断して学習成果の共有や議論」に関しては、「学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況を把握・分析し、共有」を行っただけでなく、学生の作品発表会や講評会への他学科教員の相互参加を行い、参加教員が教授会で報告し、情報を共有した。

## 2 各基準の改善・向上

### 基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

## 4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

## 基準5 学生の受け入れ

## 5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

**基準6 教員・教員組織**

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

**III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書**

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する	
年度目標	1) 2023 年度カリキュラム改定に伴って、基盤教育担当教員の採用分野を選定する 2) 英語教育に関しては低学年と高学年の連携も含めて、デザイン工学部に相応しい教育方針の検討を継続的に実施する	
達成指標	1) 基盤教育方針に沿った分野を担当できる専任教員を新規採用する 2) コロナ収束後の「海外英語研修」について検討する	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	1) 基盤教育教員採用枠3名に対して1名の採用に留まった(詳細は下記「教育・教員組織」参照)。 2) 初回授業では、グループディスカッション形式で行い、各学生が将来何を目指しているかなど、意見交換を行い、長期的な英語学習の意義を確認することができたが、それに連携した高学年向けの英語教育についての具体的な教育内容については今後の検討を要する。
改善策	1) 来年度採用に向け、採用分野、採用基準および採用方法を見直す必要がある。 2) 引き続き、学生の進路を見据えた英語学習の意義を強調し、グループワークや発表、事例紹介などを行い、長期的な英語学習への意欲を高める工夫をする。また、具体的な「海外英語研修」についてのカリキュラムの検討を行う。	

質保証委員会による点検・評価		
所見	1) 基盤教育の充実を図るために確保した採用枠であるから、できるだけ早い時期に充足すべきである。 2) 学生に長期的な英語学習の意義を示したことは評価できるが、高学年での専門性と関連した英語研修の具体的な検討が行われていないのが惜しまれる。	
改善のための提言	1) 専任教員の採用は慎重になるべきだが、基盤教育においては、学科の垣根を越えて、より柔軟な採用決定手順を考えてもよいのではないか。 2) 現在市ヶ谷コミュニティ連携会議で検討されている文理融合型の「海外フィールドスタディプログラム」を取り込む形でカリキュラムを検討してはどうか。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する	
年度目標	1) 造形制作室の利用状況をモニタリングし、安全性を配慮した運用方法を検討する 2) コロナ収束後のオンライン授業の有効な活用方法を検討する	
達成指標	1) 造形製作室の中期的な運用計画策定する 2) 対面よりもオンライン授業の方が教育効果の高い事例を把握し、カリキュラムに活かす	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	1) デジファブセンターと造形製作室の予約システムをオンライン化し、ユーザの利便性が向上し、全体の稼働状況の把握が容易になった。 2) 英語教育において、ZOOM受講生向けに、板書代わりにパワーポイントを活用し説明し、対面受講生には、その場でZOOM入室させ、同じ画面を見ながら授業を展開することで、板書と比べてよりきめ細かくわかりやすい説明につながった。また、情報教室を利用しないプログラミング教育においても教員の画面を見ながら説明できるので、対面よりもわかりやすい授業が展開できた。
	改善策	特になし
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) デジファブセンターと造形製作室のオンライン予約システムによりユーザの利便性が向上したことで稼働状況が把握しやすくなったことは評価できる。 2) 英語教育やプログラミング教育において、コロナ禍で培われたノウハウを生かしたオンライン教育が実施されたことは評価できる。
改善のための提言	特になし	
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する	
年度目標	学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況を把握・分析し、共有する。	
達成指標	学修成果可視化システムを用いて、学部横断科目履修学生の学修成果を把握する	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	今年度から学修成果可視化システム「Halo」の運用が始まったが、他学部生の履修状況を確認する項目がないため、学習成果を把握することができなかった。そこで、学務から直接データを取り寄せ、学習データを把握し、分析を行った。
	改善策	学修成果可視化システム「Halo」の検索項目に他学部学生の履修状況を確認できるように改良するよう要望する。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	学修成果可視化システム「Halo」によりデータが取得できなかったが、学務データから分析したことは評価できる。	

	改善のための提言	授業担当者に直接ヒアリングするなどして、履修状況の実態をより深く把握することも考えてはどうか。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
	年度目標	学生の受賞情報など、大学全体のホームページへ情報を提供する手順を整理する。
	達成指標	学生の受賞情報など、大学全体のホームページへの掲載情報を吟味し、見せ方を工夫する
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	従来のように、学科教室会議から運営委員会、教授会に順次報告するのではなく、受賞者あるいはその担当教員が学部で運営する Google form へ直接入力することにより、受賞状況を迅速に把握し、すぐに学部ホームページ等に掲載できるようにした。
	改善策	特になし
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教員や学生の受賞情報を迅速に把握し、公表できるようになったことは評価できる。
	改善のための提言	特になし
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	2021 年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行する
	年度目標	・基盤教育方針に沿って、担当分野を選定し、専任教員の採用方法を決定する ・教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う
	達成指標	基盤教育担当専任教員 3 名の新規採用人事を行う
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	基盤教育教員採用枠 3 名の公募し、建築 2 名、都市 1 名に対し多数の応募があったが、書類選考、採用面接を行い、厳選した結果、建築 1 名の採用に留まった。
	改善策	公募の場合、教育歴や研究分野が多岐にわたるため、こちらの期待に当てはまる人材を見つけるのが難しい。残り 2 名の採用については、公募だけでなく、スカウトによる採用も検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2 学科とも公募から書類選考、面接に至るまで全専任教員が多くの時間を費やし、真剣に取り組んだことは評価できるが、採用枠 3 名中 1 名のみ採用に留まったのは惜しまれる。
	改善のための提言	公募によりすべての基盤教員枠を満たすことはむずかしいと思われるので、多岐にわたるルートを使って求人することが望ましい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
	年度目標	学生と教員の連絡方法に関する課題を確認する
	達成指標	学習支援システムの掲示板機能などの利用事例を調査し、活用方法を検討する
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	学生モニター制度を利用して、教員や大学との連絡手段について学生から直接意見聴取を行ったところ、「コロナ禍以降、大量のメールや通知等が来るようになって処理しきれず、重要メールを見逃してしまうことが増えた。メール周知すべきものと Hoppii での周知にとどめるものを区別して、配慮してほしい」などの指摘があったが、具体的な対処には至っていない。

	改善策	Web 掲示板や学習支援システムからの「お知らせ」を重要度別に区別できるような機能を持たせるよう要望したい。また、各教員からの連絡手段を一元化したり、教員のメールアドレスを学習支援システムから確認できるようにする必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生モニター制度を利用して、学生からの忌憚ない意見を直接聴取したことは評価できる。
	改善のための提言	学生から不満を解消できるような具体的な対応策を検討し、ぜひ全学的に提言していただきたい。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
	年度目標	1) 公開授業やデザインスクールを具体的に実施する 2) 協定の具体化を進める
	達成指標	1) 公開授業やデザインスクールの告知方法やフィードバックの方策を検討する 2) 現地において学生が参画したワークショップを実施する
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1) 8月22日に、高校生を対象にデザインスクールを開催した。昨年度は告知や募集方法に偏りがあったため、参加者が付属校生徒が多数を占めたが、今年度はこの点を見直し、広く告知し、応募者多数の場合は、高校別に抽選制で参加者を選定することで改善を図った。 2) 今年度は、コロナ禍で延期されていた、担当教員の在外研修期間と重なったため、予定していたワークショップが実施できなかったが、沼津市の協力を得て修論のフィールド調査を実施し、学会発表を行った。
	改善策	1) 特になし 2) 2022年度に学生とともに住民ワークショップを実施した「内膳堀」の計画については沼津市が来年度に設計を進める予定との報告を受けていることから、来年度は再度学生を含む活動を行っていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) デザインスクールを開催し、その告知や応募方法を改善したことは評価できる。 2) 担当教員不在のため、ワークショップを実施できなかったことは残念であるが、在外研修中でも来年度に繋げる活動を行っていることは評価できる。
	改善のための提言	1) 特になし 2) 複数の教員で取り組むようにすべきである。
【重点目標】 デザイン工学部基盤教育の基本方針とこれに沿って、専任教員の採用を行う。 【目標を達成するための施策等】 基盤教育における担当分野の選定と採用方法を具体的に決定し、教員3名の新規採用人事を行う 【年度目標達成状況総括】 重点目標である「基盤教育における担当分野の選定と採用方法を具体的に決定」した点は評価できるが、基盤教育担当教員の採用枠3名に対して1名のみの採用に留まってしまったため、来年度の採用方針等を見直し、できるだけ早急に残り2名の枠を充足させていく。 高学年に対する英語教育のカリキュラムについては引き続き検討し、次のカリキュラムの見直し時に導入できるように準備していく。		

## IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う

	2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する
年度目標	1) 基盤教育専任教員2名の採用分野、採用基準および採用方法を見直し、採用活動を行う。 2) 学生の長期的な英語学習への意欲を高める工夫をし、高学年向けの「海外英語研修」についてのカリキュラムの検討を行う。
達成指標	1) 基盤教育専任教員2名の新規採用人事を行う。 2) 学生の進路を見据えた英語学習の意義を強調し、学習意欲を高める工夫をする。また、市ヶ谷コミュニティ連携会議で検討されている文理融合型の「海外フィールドスタディプログラム」を取り込む形でカリキュラムを検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する
年度目標	1) 造形制作室の利用状況をモニタリングし、効率的かつ安全な運用計画を策定する。 2) 対面においてオンライン授業の方が教育効果の高い事例を把握し、カリキュラムに活かす。
達成指標	1) オンライン予約システムを利用して、造形制作室の全体の稼働状況を年間を通して把握し、中期的な運用計画を策定する。 2) オンラインでも教育効果の高いコンピュータ実習科目については、オンラインツールを効果的に併用している科目を把握し、教育方法の改善を図る。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
年度目標	学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況をより綿密に把握・分析し、共有する。
達成指標	学修成果可視化システム「Ha1o」により、学部横断科目の履修状況を把握・分析するだけでなく、授業担当者に直接ヒアリングするなどして、履修状況の実態をより深く把握することも検討する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
年度目標	教員や学生の受賞情報等を迅速に学部ホームページに掲載するだけでなく、より魅力ある提示の仕方を検討する。
達成指標	各学科の受賞論文や作品の見せ方を調査し、容易かつ効果的にその実績を提示できるようなホームページの構成を検討する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	2021年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
年度目標	昨年度に引き続き、基盤教育方針に沿って、担当分野を選定し、専任教員の採用方法を決定する。また、採用の際は、教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮する。
達成指標	年齢構成と分野のバランスを考慮して基盤教育担当専任教員2名の新規採用人事を行う。
評価基準	学生支援
中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
年度目標	大学から学生に送信される「お知らせ」メールが膨大になっているため、重要メールを見逃してしまうという問題に対して改善を行う。
達成指標	大学から学生に送信される大量のメールの実態を調査し、Web 掲示板や学習支援システムからの「お知らせ」を重要度別に区別できるような方策を検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
年度目標	1) 公開授業やデザインスクールを具体的に実施する。 2) 地域住民との交流を深め、「景観・まちづくり」の具体的な改善提案を行う。
達成指標	1) 告知方法を工夫して、特定の高校に偏ることなく、できるだけ多くの高校生が参加で

	きるようなデザインスクールを開催する。 2) 学生と教員による現地調査を行い、地域住民と学生によるワークショップを開催する。
<b>【重点目標】</b> デザイン工学部基盤教育の基本方針に沿って、採用方法と採用方針について再検討し、専任教員の新規採用する。 <b>【目標を達成するための施策等】</b> 基盤教育担当の専任教員2名の採用人事を行う。	